

コロナウイルス文献情報とコメント(拡散自由)

2022年1月12日

公衆衛生専門家、臨床家、科学者の公開書簡：国際的な「ワクチン+公衆衛生対策」の緊急実施を求める

【松崎雑感】

世界中の著名な疫学者、臨床家などの公開書簡がBMJを通じて発表された。ワクチンオンリーでなく、非薬物的感染防止対策を並行して行うという、総合的対策が必要というものです。特徴的な主張は、空気感染防止に重点を置いた換気と、高性能マスク使用の主張です。

もちろんワクチン接種はそれだけで、死亡と重症化を一桁減らせるという大きな効果があるが、変異株に対してはそれだけでは極めて不十分であり、3密防止とマスク着用、換気的重要性を強調しています。

公衆衛生専門家、臨床家、科学者の公開書簡：国際的な「ワクチン＋公衆衛生対策」の緊急実施を求める

An open letter by a group of public health experts; clinicians; scientists. Covid-19: An urgent call for global "vaccines-plus" action. [BMJ](#). 2022 Jan 2;376:o1. doi: 10.1136/bmj.o1. PMID: 34980603.

2021年12月26日、WHOは新型コロナウイルス感染者が2億7800万人、死亡者は540万人を超えたと発表している。オミクロン株も急速に広がっている[1]。

感染症をまごうことのない害ととらえて、抑制から完全制圧を目指す国もある[2]。このような国では、ワクチン接種＋公衆衛生対策＋経済支援（ワクチン-プラス）を包括的に実施して、低感染率を追求している。

一方、医療システムの崩壊をもたらさないように感染免疫とワクチン免疫（ハイブリッド免疫）によって集団免疫を達成する「緩和戦略」をとる国もある。

このような国では対策がワクチン接種だけであり、時刻の医療システムが耐えられる程度までの高感染率を許容するものである。

しかし、（感染性の低い）当初流行株に対応した集団免疫戦略は、感染力と免疫すり抜け力の高いデルタ株とオミクロン株の流行によって崩壊したと言える（意識）[3]。オミクロン株はデルタ株よりもブレイクスルー感染と既感染者への再感染率が高いため、免疫すり抜け力が高いと言える[4]。

感染力が強い場合、パンデミック対策に大きな狂いが生ずる。ヒトからヒトへの感染回数が増えるにつれて、感染力増加（アルファ、デルタ、オミクロン）、免疫すり抜け（ベータ、オミクロン）、病原性増加（デルタ、アルファ）が増える[5]。

「ワクチンだけ戦略」にはさらに欠点がある。感染率の増加を許した国では、新型コロナウイルスによる死亡も、総死亡も明らかに増加し、ヘルスケアワーカーの不足、感染を減らすためのロックダウンの繰り返しが起きる[2,6~9]。パンデミックの早期から感染を抑制できた国では、死亡率も低く、経済的損失も少なくなっている[2,7,10,11]。

ワクチンを受けた人々は、重症化と死亡リスクは大きく減るが、ブレイクスルー感染後ロングコロナという体調不良に見舞われる恐れもある[12,13]。感染がコントロールできない状態が長く続くと学校閉鎖や生徒と教師の病休が増え、学校教育が阻害され、次世代のウェルビーイングと成長が長期間損なわれる[14]。

感染レベルが高くなると、検査、追跡、隔離という重要な公衆衛生対策に大きな負荷が加わり、効果が減り、感染がさらに増加するという悪循環をもたらす [15]。

このような理由に基づき、ワクチン接種 + 公衆衛生対策 + 経済支援を同時に進める「ワクチン-プラス」戦略を世界的に進めるべきであると考えます。

この戦略により、新たな変異株出現を遅らせ、公衆衛生対策をしっかりと行って感染率を低く抑えることができたなら、感染に弱い人々も含め、すべての人々がより自由な生活を送ることができるようになるだろう。

われわれは市中とヘルスケア施設におけるマスク着用を勧める最近のWHOガイダンスを歓迎するが、社会経済活動を妨げる感染の流行をしっかりと阻止するためには、それだけでは不十分と考える [16,17]。

われわれは以下の項目をWHOと加盟国政府に要請する。

1. 新型コロナウイルスが**空気感染**する病原体であることを明確に表明し、その性質に応じた感染防止対策が重要であることを強調する事[18]。飛沫感染が主な感染経路であるという過去の対策が誤りを正すために、WHOが明確なメッセージを発信すべきである[18]。
2. 屋内の集まりなどの感染リスクの高い状況で、**高性能マスク**を使用すべきである。市中においてマスクを着用することが感染防止に極めて有効であることは確立されている[19,20]。屋内の密な場とヘルスケアの場では、N95などの高機能マスクの使用が望まれる[20,21]。
3. **室内の換気とフィルタリング**を勧めること。単に窓を開けるにとどまらず、すべての屋内施設の空気が清浄化できるように設計、建築、改良を進めること。これにより新型コロナ感染防止に効果があることが証明されている[22～24]。

4. 市中感染レベルに応じて、対策を強化する、あるいは緩和する基準を定めること。感染者と濃厚接触者の特定、**検査、追跡、隔離**が感染防止に有効である市中感染率が低くなることで、様々な対策の有効性が増し、さらに感染を押さえるという好循環がもたらされる。隔離の必要な人々に適切な経済的サポートを行う必要がある。これは特に低中所得国のすべての人々および高所得国の貧困層に必要な対策である[25,26]。
5. 世界のすべての人々がワクチンを受けられるよう緊急対策が必要である：ワクチンのシェア、ワクチンパテントの放棄、製造技術拡散の円滑化、高品質のワクチンを製造配布するための地域的拠点の設置など[27]。ワクチンに対する誤解を解き、受けたいときにすぐ受けられるようにし、ワクチンの有効性と安全性を正確に情報提供する必要がある。

「ワクチン-プラス」戦略は、お金がかからず、十分実現可能である。

WHOテドロス事務総長は、2021年12月14日の声明で次のように述べている：「はっきり言いたい。ワクチンだけではこのパンデミックを乗り切ることにはできない。既に存在する対策をしっかり継続するなら、オミクロン株の流行を防ぐことができる。ワクチン接種に加えて、マスク着用、ソーシャル・ディスタンシング、換気、手洗いをすべて実行しよう」